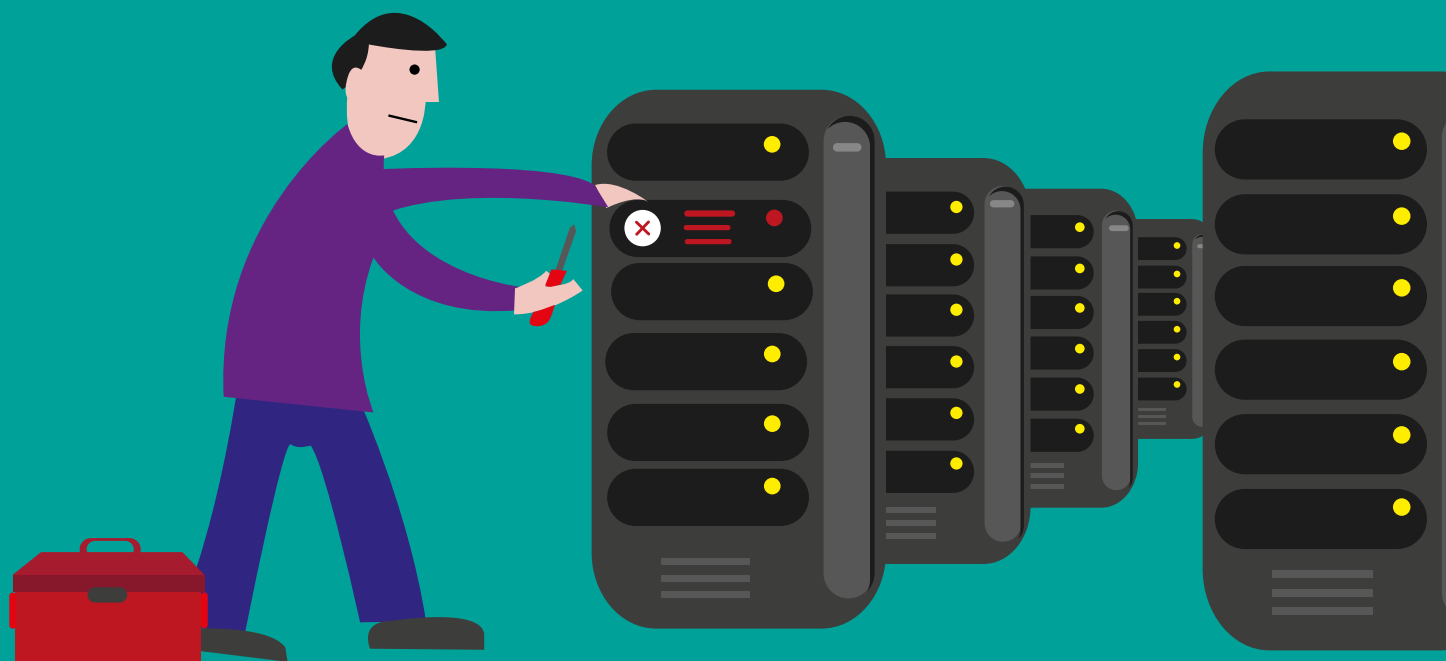


Windows Server 2008 サポート期限迫る！ チェックリストつき

# サーバー移行 How-to読本



# Contents

サポート切れのサーバーはなぜ危険？	3
サーバー移行のポイント	5
移行するサーバーのリストアップ	5
移行先サーバー OS の選定	5
移行するサーバーの役割確認	6
サーバー管理体制の見直し	7
統合監視ツールで実現！ 効率的なサーバー移行方法	9
まとめ	14

2020 年 1 月 14 日、サーバー OS である「Window Server 2008」と「Windows Server 2008 R2」のサポートが終了します。これに伴い、Windows Server 2008 系を使用する企業の多くは、対応を迫られています。

サポートが切れる Windows サーバーの移行には、一体どのようなことをすべきでしょうか。そもそも、サポートが終了するだけなのに、どうして移行が必要なのでしょうか？

当 eBook では、サーバー移行の必要性と、サーバー移行時に注意すべきポイント、確認すべきことについて説明していきます。

## サポート切れのサーバーはなぜ危険？

そもそも、Windows Server のサポートが終了するとは、どういうことなのでしょうか。

Windows Server のベンダーであるマイクロソフト社では、製品のサポートレベルを「メインストリームサポート」と「延長サポート」の 2 段階に分けています。メインストリームサポートは、製品発売から少なくとも 5 年間、セキュリティ更新プログラムのほか、仕様変更や新機能の追加、修正プログラムの提供やリクエスト受付など、製品に関する幅広いサポートを提供するものです。一方、延長サポートとは、メインストリームサポート終了後に新たに 5 年間にわたって提供されるサポートサービスです。延長サポートでは、脆弱性を解消するセキュリティ更新プログラムの提供が中心となります。サポートが終了するとは、この「延長サポート」の期間が過ぎて、2 つのサポート期間外になることを指します。

Windows Server 2008・2008 R2 は、メインストリームサポートが 2015 年 1 月 13 日に既に終了しており、延長サポートが前述の通り 2020 年 1 月 14 日に終了します。これ以降は、問い合わせに対する調査や回答のほか、機能の不具合修正、セキュリティ更新プログラムの提供など、すべての更新が停止します。

## なぜサポート切れが問題になるのか

マイクロソフト社のサポートには、OS 自体の利用権は含まれていません。サポートが切れたからと言ってすぐに Windows Server 2008 や 2008 R2 が使用不可能になるわけではありません。それでは、なぜ OS のサポート期間終了のたびに世間が騒ぎ、人々は対応を迫られるのでしょうか。

これには、延長サポートの終了により提供されなくなる「セキュリティ更新プログラム」が深く関係しています。

セキュリティ更新プログラムとは、Windows Server 2008・2008 R2 にセキュリティ脆弱性があった場合に、これを修正するためのプログラムです。つまり、延長サポート終了後も Windows Server 2008・2008 R2 の使用を続けた場合、新たに発見された脆弱性に対応するセキュリティ更新プログラムが提供されないため、致命的な欠陥をさらけ出し続ける状態になり得るということです。

ここまで読んで、「うちのサーバーはインターネットに接続していないから、サポートが切れても大丈夫だろう」と思っていませんか？ 残念ながら、そうとも言い切れません。

インターネットからサーバーに向けられる攻撃は確かに多いと言えます。しかし、外部ではなく、内部にも、攻撃元は存在する可能性があります。悪意を持った人間が、内部ネットワークに侵入するかもしれません。悪意がなくとも、誰かがウィルスに感染した端末を内部のネットワーク内に持ち込んで、内部ネットワークが外部から操作可能な状態になるかもしれません。

このことから、セキュリティ更新プログラムの提供が切れたサーバーは、よほどの目的が無い限りは使用を継続すべきではないと結論づけられます。

### Tips どうしても 2008/2008 R2 でないとダメな場合

有償の延長セキュリティ更新プログラムへの加入、または、Microsoft Azure への移行を検討してみてください。Azure では 3 年間、Windows Server 2008・2008 R2 の延長サポートが無償で受けられます。OS に依存した独自アプリケーションがある場合で、移行の体制が整っていないならおすすめの移行先と言えるでしょう。

# サーバー移行のポイント

現在稼働している Windows Server 2008 や 2008 R2 上のデータやアプリケーションを安全に継続利用するには、OS をより新しいバージョンに移行する必要があります。サーバー移行の前に最低限やるべきことは次の通りです。

## サーバー移行の前に最低限やるべきこと

- ・ 移行するサーバーのリストアップ
- ・ 移行先サーバー OS の選定
- ・ 移行するサーバーの役割確認
- ・ サーバー管理体制の見直し



## 移行するサーバーのリストアップ

まずは、移行すべき対象のサーバーがネットワーク内に何台存在するかを可視化します。サーバー OS が Windows Server 2008・2008 R2 であるサーバーをリストアップし、その中から移行すべきサーバーを選定します。

使用の用途によっては、データの移行を必要とせず、新規構築で問題ない場合もあります。移行が不要なサーバーに対して手間をかけてしまうことがないように、移行が必要なサーバーを正しくリストアップしましょう。

## 移行先サーバー OS の選定

まずは、現在の Windows Server 2008・2008 R2 を、どの OS に移行するかを決定しましょう。移行先 OS として推奨されるのは、

現時点において最もサポート期間が長い最新のバージョンである「Windows Server 2019」または、その1つ前のバージョンである「Windows Server 2016」です。

Windows Server 2019 および Windows Server 2016 は、ユーザーインターフェースがクライアント OS の Windows 10 と酷似しています。Windows Server 2008系と見た目には差があるものの、違和感なく導入が進められるのではないのでしょうか。

## 移行するサーバーの役割確認

移行するサーバーがどのような用途で使われているのかを明確にしましょう。中には、プログラム自体はインストールされているが使用されていないケースがあるかもしれません。移行作業を機に、使用している機能と使用されていない機能を洗い出し、余分なものをそのまま移行しないようにしましょう。

ここまでの内容を踏まえ、例えば以下のようなチェックリストを作成すると、移行すべき対象が可視化できておすすめです。

装置名	IP アドレス	メモリ	ディスク 容量	CPU コア数	NIC 数	役割・インストールソフト
webSv01	192.168.1.22	4GB	200GB	2	2	<input type="checkbox"/> ドメインコントローラー <input type="checkbox"/> メールサーバー <input checked="" type="checkbox"/> Web サーバー <input type="checkbox"/> 仮想ホスト <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
Hypervhost	192.168.2.1	32GB	1TB	8	2	<input type="checkbox"/> ドメインコントローラー <input type="checkbox"/> メールサーバー <input type="checkbox"/> Web サーバー <input checked="" type="checkbox"/> 仮想ホスト <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
						<input type="checkbox"/> ドメインコントローラー <input type="checkbox"/> メールサーバー <input type="checkbox"/> Web サーバー <input type="checkbox"/> 仮想ホスト <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
						<input type="checkbox"/> ドメインコントローラー <input type="checkbox"/> メールサーバー <input type="checkbox"/> Web サーバー <input type="checkbox"/> 仮想ホスト <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

※チェックリストのサンプルファイルは次の URL からダウンロードできます。

[https://www.manageengine.jp/download/products/OPM/opm-serverlist\\_zohojapan\\_ebook201908.xlsx](https://www.manageengine.jp/download/products/OPM/opm-serverlist_zohojapan_ebook201908.xlsx)

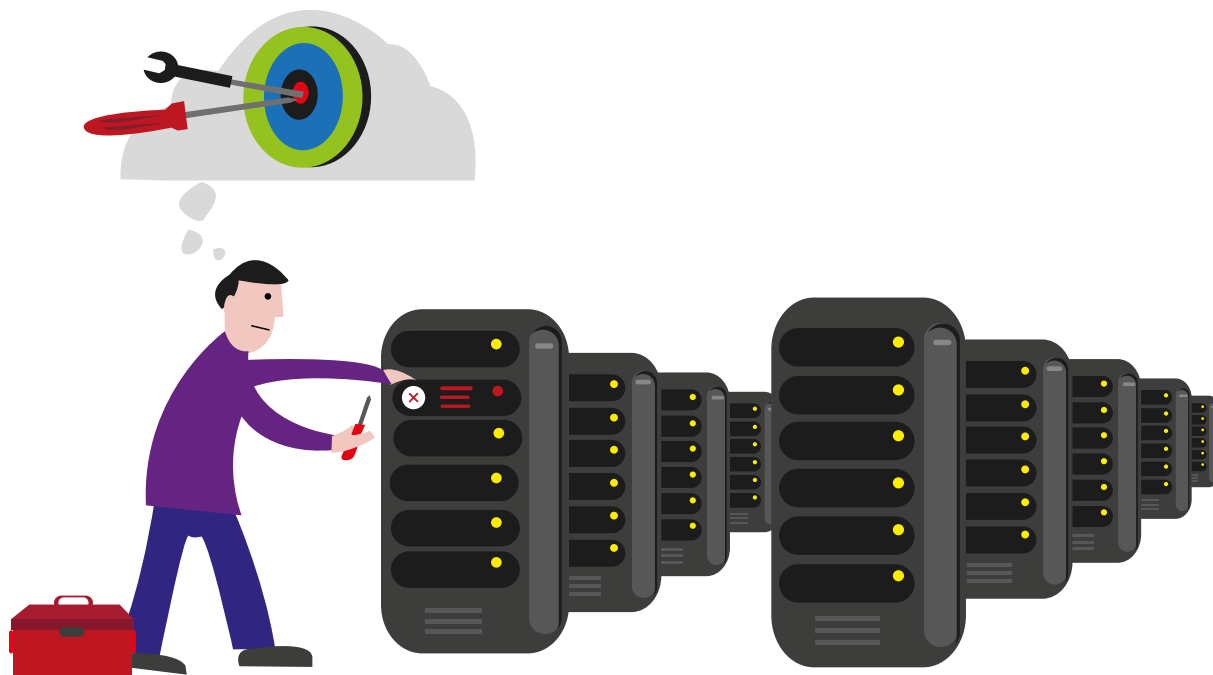
## サーバー管理体制の見直し

移行されるサーバーが、管理体制から漏れることのないように気をつけましょう。

サーバー監視ツールを使用している場合は登録が漏れることのないように注意します。また、更新が必要なネットワーク図や構成管理表などはあらかじめ洗い出しておき、サーバー移行後に直ちに更新できるようにします。

また、サーバーや構成が変更される際に、管理に手間がかかる場合は、管理ツールの導入や適切なツールへの置き換えを検討しましょう。

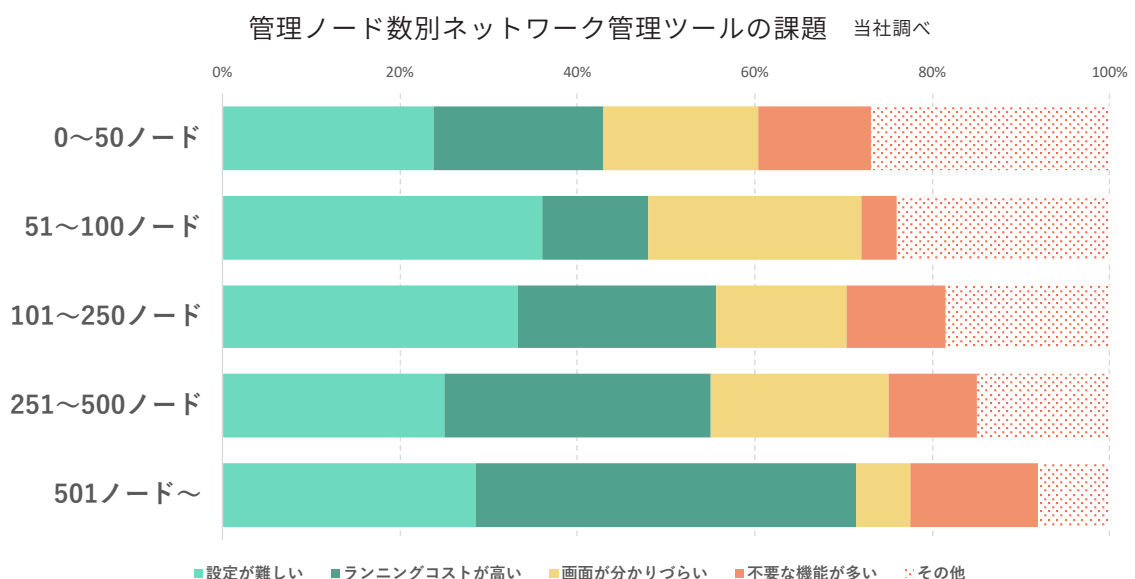
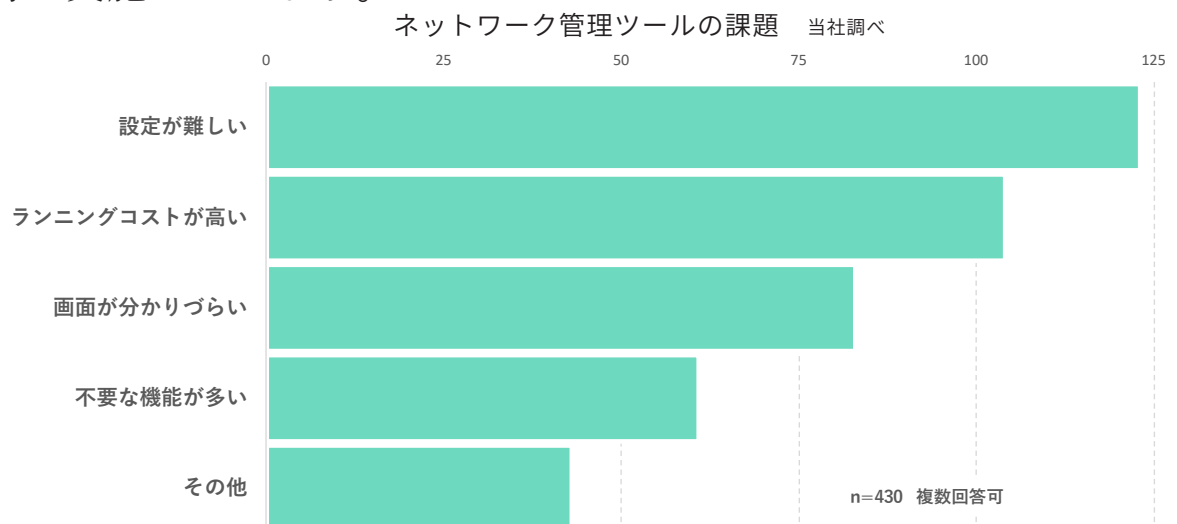
更新に手間がかかるツールを使用していると、更新に余計な工数をとられたり、更新が完了するまで適切な構成が把握できないおそれがあります。また、面倒くさがられ、適切に更新されなくなってしまうことも考えられます。



## Tips 💡 管理ツールに対する悩み

ネットワーク管理者が抱える管理ツールへの悩みの1位は「設定が難しい」、2位は「ランニングコストがかかる」とであるという調査結果が出ています（当社調べ）。ネットワーク構成の変更のたびに難しいツールを使用し、苦勞して設定を行うのは得策ではありません。どの規模でもツールの設定が難しいのが共通の課題としてみられ、小規模ネットワークではツールの使用感の課題、大規模ネットワークではツールのランニングコストが課題となりやすいようです。

サーバー管理体制の見直しを行い、ツールの導入や刷新を行う場合は、「ツールの使用感」と「ランニングコスト」に注意して検討を実施しましょう。





# 統合監視ツールで実現！効率的なサーバー移行方法

ここからは、前半でご紹介した、サーバー移行までにすべきことを、ManageEngine が提供するネットワーク統合監視ツールである「OpManager」を使用して準備する工程をご紹介します。

## 事前準備 認証・ネットワークディスカバリー

OpManager では、ネットワークの IP アドレス範囲を指定することにより、アドレス範囲内のサーバーを一括登録できます。SNMP や WMI 等のサーバー認証情報を登録後、管理したいサーバーがある IP アドレスの範囲を指定して、OpManager にサーバーを登録します。登録したサーバーは、認証が有効な場合、自動で OS が識別されます。

### ディスカバリー - 範囲 ?

装置名/IPアドレス	ネットワークのIP範囲により、複数のデバイスを同時に検出します。
IP範囲	<input checked="" type="radio"/> v4 <input type="radio"/> v6
CIDR	
CSVファイル	
既存装置	

開始IPアドレス

192 . 168 . 3 . 1

終了IPアドレス

192 . 168 . 3 . 253 +

FromIP=192.168.1.1- ToIP=192.168.1.253  
FromIP=192.168.2.1- ToIP=192.168.2.153

サブネットマスク ?

255.255.255.0

[フィルターを追加](#)



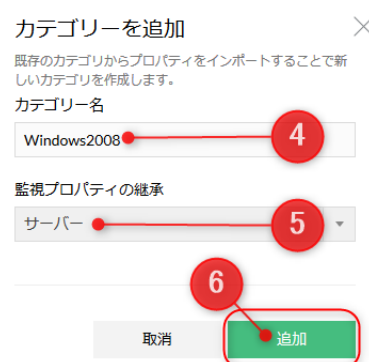
## サーバーリストの作成

OpManager に登録したサーバーやその他機器の中から、OS が Windows Server 2008・2008 R2 のサーバーを抽出します。抽出手順は以下の通りです。

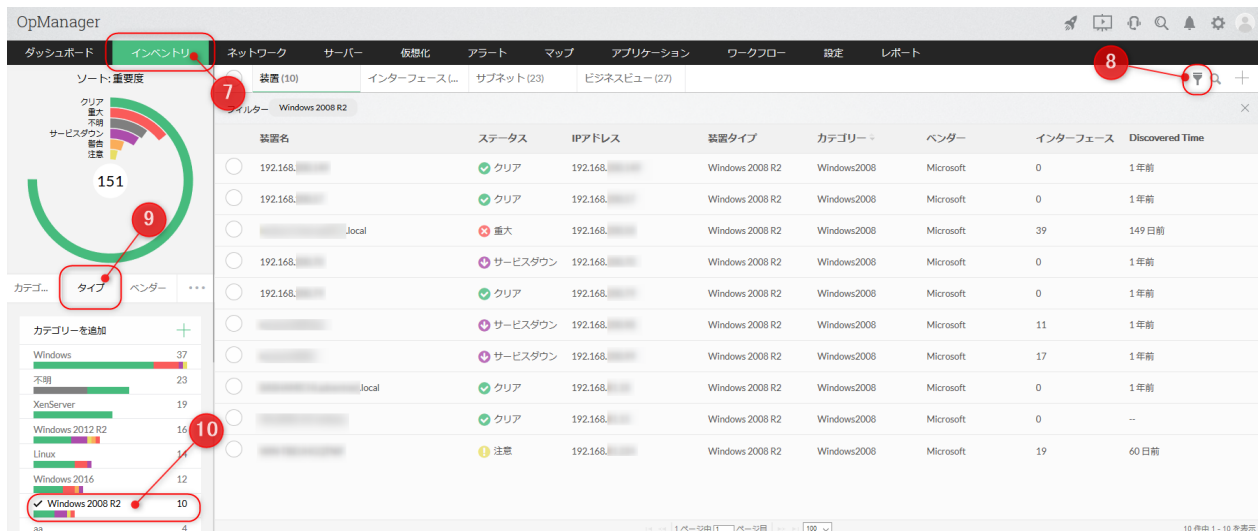
OpManager 上では、正常に認証されたサーバーの OS が自動で識別されます。Windows Server 2008・2008R2 に識別されたサーバーをまとめるカテゴリを作成し、一括操作をしやすくします。サーバーをカテゴリ分けするには、[設定]①から[装置カテゴリ]②を選択し、表示された画面右上の[カテゴリを追加]③ボタンをクリックします。



Windows Server 2008・2008 R2 のカテゴリであることが分かるような名前をつけ④（ここでは仮に「Windows2008」としています）、[監視プロパティの継承]から「サーバー」を選択後⑤、[追加]ボタン⑥を押下して新カテゴリを作成します。



次に、OpManager 上に存在する Windows Server 2008・2008R2 サーバーを、作成したカテゴリーに登録します。[インベントリ]⑦画面右上のフィルタアイコン⑧を押下後、[タイプ]⑨タブを押下し、装置タイプから「Windows Server 2008」と「Windows Server 2008 R2」を選択し⑩、装置タイプが Windows Server 2008・2008R2 であるサーバーだけを表示されるようにします。



Windows Server 2008・2008R2 サーバーだけを表示後、装置を一括選択し⑪、画面右上の [...] メニュー⑫から [装置をインポート] ボタン⑬を押下します。



装置をインポート画面から、手順①～⑥で作成したカテゴリーを選択し⑭、保存します⑮。これにより、選択した Windows Server 2008・2008R2 サーバーが、作成したカテゴリーにインポートされます。



これでサーバーリスト出力のための準備が整いました。サーバー一覧の出力手順は以下の通りです。

[ レポート ] タブ⑬から [ インベントリ ] ⑭を選択し、[ サーバー ] レポートを押下⑮します。



## インベントリ

表示名	説明
★ 装置 / カテゴリー	インベントリ（装置 / カテゴリー）のレポートを作成
☆ 装置 / 装置タイプ	インベントリ（装置 / 装置タイプ）のレポートを作成
☆ 割当て通知プロファイル	すべての割当て通知プロファイルのレポートを作成
☆ 割当て通知プロファイル / タイプ	すべての 割当て通知プロファイル / タイプ のレポートを作成
☆ 割当て通知プロファイル / 装置	すべての 割当て通知プロファイル / 装置 のレポートを作成
☆ インターフェース速度レポート	インターフェース帯域のレポートを作成
☆ インターフェース / タイプ	すべてのインターフェース / タイプ のレポートを作成
☆ すべての装置	すべての装置のインベントリ（装置 / 装置タイプ）のレポートを作成
☆ サーバー	サーバーのインベントリのレポートを作成
☆ デスクトップ	デスクトップのインベントリのレポートを作成

[ サーバー ] レポート表示後、[ Filter ]（フィルター）アイコン⑯から Windows Server 2008・2008R2 サーバーのみを表示するように設定変更します。[ Filter ] クリック後に表示される 2 つのドロップダウンリストのうち、左側の [ カテゴリー ] のドロップダウンリストから手順①～⑥で作成した Windows Server 2008・2008 R2 用のカテゴリーを選択します⑰。選択後、画面右側の [ 関連付け ] ボタンを押下でフィルター設定が完了します⑱。



OpManager

ダッシュボード インベントリ ネットワーク サーバー 仮想化 アラート マップ アプリケーション ワークフロー

OpManager フロー解析 コンフィグ管理 ファイアウォール アドレス管理 DPI 監査

サーバー ☆

19 Filter | エクスポート | その他

21 関連付け

20 Windows2008

Device Type	RAM (in MB)
Linux	0
Windows 2016	0
Windows 2012	0
Windows 2012	0
Linux	0

Windows Server 2008・2008 R2 サーバー用の一覧表が完成しました。これを出力するには、画面右上の[エクスポート]をクリック②後、お好みの表示形式を選択します。前章でご紹介したチェックリストを作成するには、編集可能な[Excel形式にエクスポート]③を選択します。

上記手順で作成されたレポートを編集し、右列に項目を追加することにより、本書で紹介したようなサーバー移行用チェックリストを簡単に作成できます。

A	B	C	D	E	F
1	サーバー				
2					
3	カテゴリ: Windows2008 ビジネスビュー: すべての装置				
4	期間: 最新24時間 時間窓: 24時間				
5	生成場所: : 2019/08/29 14:36:08				
6					
7	装置名	IP Address	Device Type	RAM (in MB)	Disk (in GB)
8	192.168.	192.168.	Windows 2008 R2	8192	2013
9	192.168.	192.168.	Windows 2008 R2	8064	120
10	192.168.	192.168.	Windows 2008 R2	8064	120
11	.local 192.168.	192.168.	Windows 2008 R2	8192	100
12	192.168.	192.168.	Windows 2008 R2	4096	40
13	192.168.	192.168.	Windows 2008 R2	4096	1861
14					

サーバー移行後についても、再度 OpManager からネットワークディスカバリーを実施することで、管理ツールへの登録も半自動で実行できます。



## まとめ

ここまでで、サポート期限が終了間近の Windows Server 2008・2008 R2 等のサーバーを移行する前にすべきこと、賢いサーバー管理方法をご紹介します。

サーバー移行の前に、当 eBook でご紹介したチェックリストを使用して、サーバー移行を漏れなく実施できるよう、準備をして実行してください。

### サーバー移行の前に最低限やるべきこと

- **移行するサーバーのリストアップ**  
移行すべきサーバーを選定しましょう。
- **移行先サーバー OS の選定**  
移行すべきサーバーの OS を、Windows Server 2008・2008 R2 からどの OS に変更するかを検討しましょう。
- **移行するサーバーの役割確認**  
移行するサーバーがどのような用途で使用されているかを明確にして、漏れがないようにリストアップしましょう。
- **サーバー管理体制の見直し**  
移行されたサーバーが管理から漏れないように、管理体制を見直しましょう。



現在のツールの設定が難しく感じられる管理者さまや、管理の手間にお悩みのサーバー管理者さまは、操作が簡単で登録したサーバーを簡単に管理可能な統合監視ソフトウェア「OpManager」を是非ご検討ください！



# 💡 OpManager について

ManageEngine OpManager は、低価格で運用に乘せやすいネットワーク統合監視ソフトウェアです。OpManager の特長は以下の通りです。

## 特長 1：物理も仮想もクラウドもこれ一つ

物理サーバーと同じように VMware や Hyper-V のパフォーマンスも監視。さらには AWS や Azure 等のクラウドサービスにも対応。

## 特長 2：簡単構築

8000 以上の装置テンプレートを搭載し、登録した装置を自動識別します。最短 10 分で監視開始できます。

## 特長 3：簡単操作

わかりやすい GUI で、プログラミング不要のカスタマイズも可能。

## 特長 4：低価格

年間 23.4 万円から導入可能。デバイス数に応じたわかりやすい料金体系を公開しています。



# 30日間 機能 & 監視台数 無制限

今すぐ無料でお試しいただけます

OpManager







すぐ使えるチェックリストは  
👉ここからダウンロード！

## Windows Server 2008 サポート期限迫る！チェックリストつき サーバー移行 How-to 読本

2019 年 10 月発行

Copyright © 2019 ZOHO Japan Corporation

お問い合わせ先

ゾーホージャパン株式会社

〒220-0012

神奈川県横浜市西区みなとみらい 3 丁目 6 番 1 号

みなとみらいセンタービル 13 階

Web : <https://www.manageengine.jp/>

E-mail : [jp-mesales@zohocorp.com](mailto:jp-mesales@zohocorp.com)（弊社営業宛）

ZJMR20198305